

# 普賢寺地域の今と将来を考える

## ～ヨソモノによる普賢寺地域の活性化～

大阪国際大学 「ひと・まち・つくる」プロジェクト Team.A

松田 達磨  
三登 康太郎  
二宮 弘登  
湯川 大地

## 目次

- ・はじめに
- ・京田辺(普賢寺)の現状
- ・問題の認識
- ・課題の設定
- ・政策提言
- ・まとめ

## はじめに

私たちが考える普賢寺における活性化とは内部資源の利活用である

→ <普賢寺は市街化調整区域に指定されている>

- ・ヨソモノが地域に移り住むことができない
- ・新たに住居等を建設できない

しかし、まちづくりにおいてヨソモノはキーパーソンになりうる

→ <その地域に住んでいない>

- ・地域内の常識を再考するきっかけを作りだす
- ・地域に新しい風を吹かす存在

以上のことから

普賢寺に現存している資源  
+  
ヨソモノを交えた活性化

## 京田辺(普賢寺)の現状①

### 京田辺

総人口	65,811人
高齢化率	22.3%
世帯数	26,326世帯

### 普賢寺

総人口	1,591人
高齢化率	31.4%
世帯数	616世帯

出所：京田辺市 行政区別5歳階級人口及び世帯数 平成26年1月1日現在

## 京田辺(普賢寺)の現状②

### 普賢寺地域の耕作放棄面積

田	1,893,381m <sup>2</sup>	約189ha
畠	571,250m <sup>2</sup>	約57ha
全体	2,464,631m <sup>2</sup>	約246ha

京田辺市役所提供資料による

## 京田辺(普賢寺)の現状③

### ヒアリング調査

期間：3月3日（月）まで  
場所：普賢寺地域（打田・高船・多々羅・天王・普賢寺・水取）  
対象：普賢寺地域住民・他地域住民（ふれあいの駅出品者）

＜ヒアリング項目＞

- Q. 普賢寺の現状についてお聞かせください。
- Q. 普賢寺の問題点・課題は何ですか？
- Q. ヨソモノが地域に入り込むことについてどう考えますか？
- Q. 大学生についてお聞かせください。
- Q. 理想の普賢寺はどのようなものですか？



## 京田辺（普賢寺）の現状③

### ヒアリング調査結果

**農業関係**

- 後継者不足により土地の整備が行き届かない
- 農家に興味をもっている人などを招き一緒に農作業を行いたい
- 耕作放棄地を利活用したい
- 「農を考える会」にヨソモノが参加して欲しい
- 農業に対して興味を持ってほしい
- 加工やパッケージにヨソモノ・ワカモノの意見が欲しい
- 住民同士の連携は取れている
- 京都、大阪などへのアクセスが良い

**大学**

- 京田辺市全体を対象として活動しているので、身近に感じることができない
- イベントなどを通して関わりはあるが、定期的な関わりはない

等



## 問題の認識

ヒアリング調査の結果から  
多くの普賢寺地域の住民が求めていること

ヨソモノが定期的・継続的に地域で活動すること

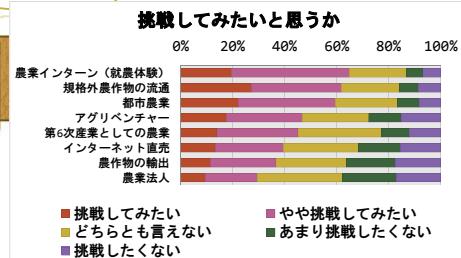
ヨソモノやワカモノとの交流・意見交換

後継者不足・耕作放棄地の増加を食い止める

## 課題の設定

ヒアリング調査より

挑戦してみたいと思うか



出所: バルシステム生活協同組合連合会 2013年6月26日



## N-1 グランプリの開催

**概要**

- 普賢寺に点在している耕作放棄地を使用
- 季節に応じた野菜の栽培～収穫・レシピ考案
- 2月～翌年1月まで行う
- 地域住民・ヨソモノ混在チーム

**審査方法**

- 同志社大学食堂で販売、味等5段階で評価
- 1ヶ月間販売し順位を決定

**外部への周知方法**

- 市役所・同志社大学HP

**参加資格**

- 18歳以上
- 2月～翌年1月まで積極的に参加できる人（通い農業でもOK）

**運営主体** 普賢寺地域農を考える会

**資金** 農林水産省「耕作放棄地再生利用緊急対策交付金」

## ルール説明

耕作放棄地を再生農地にすることからスタート

- 各チーム2月某日一斉スタート
- 2月一斉スタート後の行動は各チーム自由
  - 但し、一週間に一度は必ずチームで集まること
- 季節に応じた野菜の栽培
  - 栽培方法は有機栽培に限る
  - 栽培する野菜、種類は各チームで相談
- 収穫後の料理は各チームでレシピ提案
  - 同志社大学の食堂がレシピに基づき調理
  - 50食分とする
- 5段階で評価
  - 審査内容：料理の味・素材を活かしているか・見た目・栄養バランス・独創性・コストパフォーマンス
  - 50食に満たないチームは減点とする

